

IIC REVIEW への期待

代表取締役社長 大石 伸也
Oishi Shinya



本年6月26日に社長に就任いたしました。あらためてこの場を借りましてご挨拶させていただきます。

IICに移籍するまでは、IHIでエネルギー、電力関係、主に火力発電用ボイラプラントの基本計画に従事してきました。ここ4年ほどは海外(ドイツ)の石炭焚火力発電プロジェクトの現地事務所・現地法人の立ち上げと運営に従事してきました。その中で、特に品質記録、検査記録の管理基準の厳しさをあらためて痛感させられました。異文化との交流においては、こちらの常識が相手にとって常識でないことも多々あり、すべてを確認し、記録、文書に残すことが重要であることを再認識いたしました。

「IIC REVIEW」は1989年(平成元年)4月に創業15周年を機に創刊され、以降年2回の発刊を続けております。

創刊当初からIIC社員全員で本誌を作ることを目標とし、単なる技術論文集ではなく、IICの技術の記録として残すことを目的としています。このような形でIICの技術を蓄積し、公開する場が

続いていることをうれしく思います。

IIC社内からの投稿に加え、この趣旨にご賛同いただき、多くの原稿をいただいたIHIグループをはじめとする多くのお客様に感謝するとともに、引き続き変わらぬご支援、ご指導をお願いいたします。

IICはIHIグループの検査・計測業務を主要な事業の一つとし、そこで培われた検査技術、計測技術をベースとしたシステム装置のエンジニアリング、製作・販売に業容を拡大しておりますが、IICの原点は技術にあり、技術をもって社会に貢献することは創業以来続いている理念です。

検査・計測技術を通じ、「品質」を作り上げ、お客様の「品質」の維持、改善をサポートする会社であると考えています。お客様や社会のニーズを的確に捉え、IICの製品・サービスに反映していくためのコミュニケーションの充実と信頼関係の熟成が重要です。

4月にIICに移籍以来、半年近くが経過しました。その間、さまざまな方々と話をさせていただ

き、今まで感じていた以上に IIC 内にしっかりとした技術基盤、要素技術があり、その技術力を高く評価していただき、その可能性に期待されていることを確信いたしました。

一方で IIC の技術力への理解、関心に社内外でギャップがあることも事実です。「そんなことができるの?」「そんなこともやっているの?」といった声を聞くことも稀ではありません。IIC の持つ技術力を正確に伝え、お客様のニーズに応えるソリューションを提供できるように引き続き努力していく所存です。その一環として、この

「IIC REVIEW」では IIC の研究開発内容や保有技術、新製品、設備等を紹介するとともに、企業活動の一環である展示会への出展内容も掲載しています。

「IIC REVIEW」が有効利用され、今後とも IIC 社内外の技術やコミュニケーションの橋渡しの一助となるようにご愛読いただくことを切望いたします。

あらためて皆様方のご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。